



12 十河城 香川県高松市十河東町(称念寺付近) 三好勢最後の砦	11 昼寝城 香川県さぬき市多和 三好勢、落城できず	10 牛岐城(浮亀城) 徳島県阿南市富岡町トノ町 24-3 新開氏の居城	9 阿波公方 徳島県阿南市那賀川町 阿波出身の足利将軍	13 志知城 兵庫県南あわじ市志知松本 長慶末弟、野口則守の城
三好長慶の末弟一存が築城。長宗我部氏侵攻の際、一保の養子存保は羽柴秀吉に救援、仙石軍が来援するが敗れ開城。翌年に秀吉の四国平定軍の先鋒として従軍し奪還する。現在は称念寺となっており、寺の北側に御子孫が運営する資料館などがある。	東讃に勢力を誇った寒川氏の本城。名前の通り、昼寝をしても攻めに耐える堅守城であった。東讃に勢力を誇る安富氏や阿波の三好氏に二度攻められているが、いずれも落城しなかった。後に寒川氏は長宗我部氏に攻められ衰退していく。	南朝方安宅氏の後、北朝方細川氏の家臣新開氏が居城。1575年(天正3)長宗我部勢の阿波侵攻に最後まで抗戦したが、ついに、その軍門に降り1582年(天正10)丈六寺にて謀殺された。城は長宗我部氏、蜂須賀氏と経て幕府の一国一城令により廃城。	1534年、室町幕府11代將軍足利義澄の子の義冬が阿波國守護細川持隆に招かれ阿波へ移り住む。義冬の長男足利義栄が1568年に三好三人衆に奉じられて第十四代室町幕府將軍となる。14代將軍義栄とその父義冬などの墓がここにある。	源平合戦で功があった菅氏による築城と伝わる。後に細川氏に從い野口姓を名乗り、戦国の世、長慶の末弟冬康が養子となり野口則守と改め三好勢に応戦する。秀吉の四国平定以降は黒田氏、加藤氏を経て廃城となる。現在も古墳の如く水堀が残っている。

1 大西城・白地城 三好市池田町池田跡園・池田町白地かんばの宿 四国の十字路にある城	2 芝生城・瀧寺 徳島県三好市三野町芝生 三好長慶の生誕の地	3 岩倉城・脇城 徳島県美馬市脇町田上・美馬市脇町 岩倉合戦の城	4 秋月城 徳島県阿波市土成町秋月 阿波細川氏最初の拠城	5 勝瑞城・見性寺 徳島県板野郡藍住町勝瑞 細川氏と三好氏の拠点	6 木津城 徳島県鳴門市撫養町木津 槍場の義戦
阿波守護の小笠原氏による築城。隣接の大西氏白地城と共に南朝方の拠城だったが細川氏の勢力拡大で小笠原氏は三好氏と改姓し代わって大西氏が両城主となる。後に長宗我部氏の攻めで開城する。現在、白地城跡においてかんばの宿の天然温泉が楽しめる。	鎌倉時代、阿波守護の小笠原氏は、義長の代に芝生城に移り三好氏を名乗る。この義長を初代に三好氏は、長之・之長・長秀、そして五代元長の嫡男として、この城で長慶は誕生したといわれる。近くの瀧寺には長慶の墓が今も残る。	承久の乱後、阿波守護の小笠原長房が平盛隆を討ち岩倉城を築城。その後、三好康長がこの城を修築し子の康俊に守らせる。岩倉合戦など度重なる、長宗我部元親の攻撃に岩倉城や脇は落城するが、豊臣秀吉の甥・三好秀次によって再度開城する。	小笠原氏に代り阿波守護となつて入国した細川和氏・頼春兄弟が、土豪の秋月氏の受け入れにより築城。和氏の子で阿波細川家の祖となった詮春の代より守護居城は勝瑞城へ移る。1579年(天正7)長宗我部元親により攻められ落城、そして廃城となる。	勝瑞の地は古く、細川詮春が阿波守護として勝瑞に移り住んだのが始まり。細川氏の守護所は勝瑞城の西、地福寺付近に「細川殿」と呼ばれる地があり、また三好氏の居館は南西にある勝瑞館と推測され、現在も発掘調査や公園整備が行われている。	築城は定かでないが、篠原長房の弟自道が居城していた。1582年(天正10)中富川の戦いの後、長宗我部元親によって領有され自道は城を明け渡す。その後は元親に服従した東条閑之兵衛が城主となる。最後は秀吉による四国平定で開城する。

7 芝原城 徳島県徳島市国府町芝原 槍場の義戦	8 上桜城 徳島県吉野川市川島町桑村 主君三好長治により廃城	9 牛岐城 徳島県那賀郡那賀町和食郷八幡原 阿波細川、最後の居城	10 恩山寺の鐘 徳島県小松島市田野町恩山寺谷40 太平寺の合戦から戻る	11 草薙城 徳島県那賀郡那賀町草薙 細川真之の墓
三好義賢が阿波守護細川持隆を殺害した為、時の芝原城主・久米安芸守義広は、義賢を討つために兵を擧げる。野田氏、仁木氏、佐野氏などらとともに軍事行動を起こし、義賢の妹婿の一宮成祐を攻撃するが、義賢の大軍に囲まれ、その殆どは討死した。	篠原長宗の居城。1573年(天正元)の上桜城の戦いは、弟自道や少将の誤った中傷により主君三好長治の大軍に攻められ激戦の末、落城する。現在は近くまで車で乗入れが可能で、徒歩3分ほどで吉野川平野を見渡せる本丸へと楽に行ける。	牛岐城(浮亀城)は南朝方安宅氏の後、北朝方細川氏の家臣新開氏が居城。1575年(天正3)長宗我部勢の阿波侵攻に最後まで抗戦したが、ついに、その軍門に降り1582年(天正10)丈六寺にて謀殺された。城は長宗我部氏、蜂須賀氏と経て幕府の一国一城令により廃城。	太平寺の合戦の時、この寺の梵鐘が三好軍の陣鐘として持ち出され、戦後に太平寺に残された。150年ほど後、その梵鐘を不動尊像と半鐘に鋳直され、恩山寺に里帰りする。それには「安国山太平寺、恩山寺宝物」と刻まれ、今も使用されている。	三好実休により父細川持隆が殺害された後、勝浦や那賀の豪族の助けを得て1576年(天正4)に勝瑞城から逃れ、三好長治に抗する。長宗我部勢に攻められ長治は自害。その後、ここに真之は城を築いたものの謎の追手により自刃し廃城となる。